

2018 年 登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

二次試験（その１） 問題・解答用紙

注 意 事 項

- ① 二次試験（その１）は、No.1、No.2 の２問で、解答時間は２時間10分（130分）です。
- ② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.1 が２枚、No.2 が２枚で合計４枚です。
解答用紙はNo.1 が１枚、No.2 が１枚で合計２枚です。
- ③ 問題は全問必須ですから、２問すべてに解答してください。
なお、配点はNo.1 が20点、No.2 が20点で、40点満点です。
- ④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
- ⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
- ⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
- ⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
- ⑧ なお、二次試験（その１）は、No.1、No.2 のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。
いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
- ⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままお待ちください。
- ⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

No. 1 土地利用ダイアグラムを作成しなさい

(配点：20 点)

■出題テーマ

- ☐ 地域資源を活かした回遊性のある観光まちづくり計画

■課題

- ・計画地は、大都市圏の外縁部に位置する都市の一部で、市街地と周辺の海・山等の観光資源を有する区域である。
- ・近年、広域幹線道路が整備されたことなどから多くの観光客が訪れるようになってきており、また、高齢者を中心とする他地域からの移住者も増加している。
- ・計画地は、海水浴場、花摘み農園、社寺などの観光資源を有するものの、現状は立寄り型の利用にとどまっている。このため、利用拠点の整備や既存資源の魅力度アップなどにより、回遊しながら地域の自然・文化とのふれあいや交流・体験が楽しめる、日帰り＋宿泊型の観光まちづくりに向けた取組みが求められている。

- ☐ 次に示す計画地の現状と現況図を読み解き、解答用紙に、出題テーマを踏まえた観光まちづくりの方針を記述するとともに、方針に沿った土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

■計画地の現状

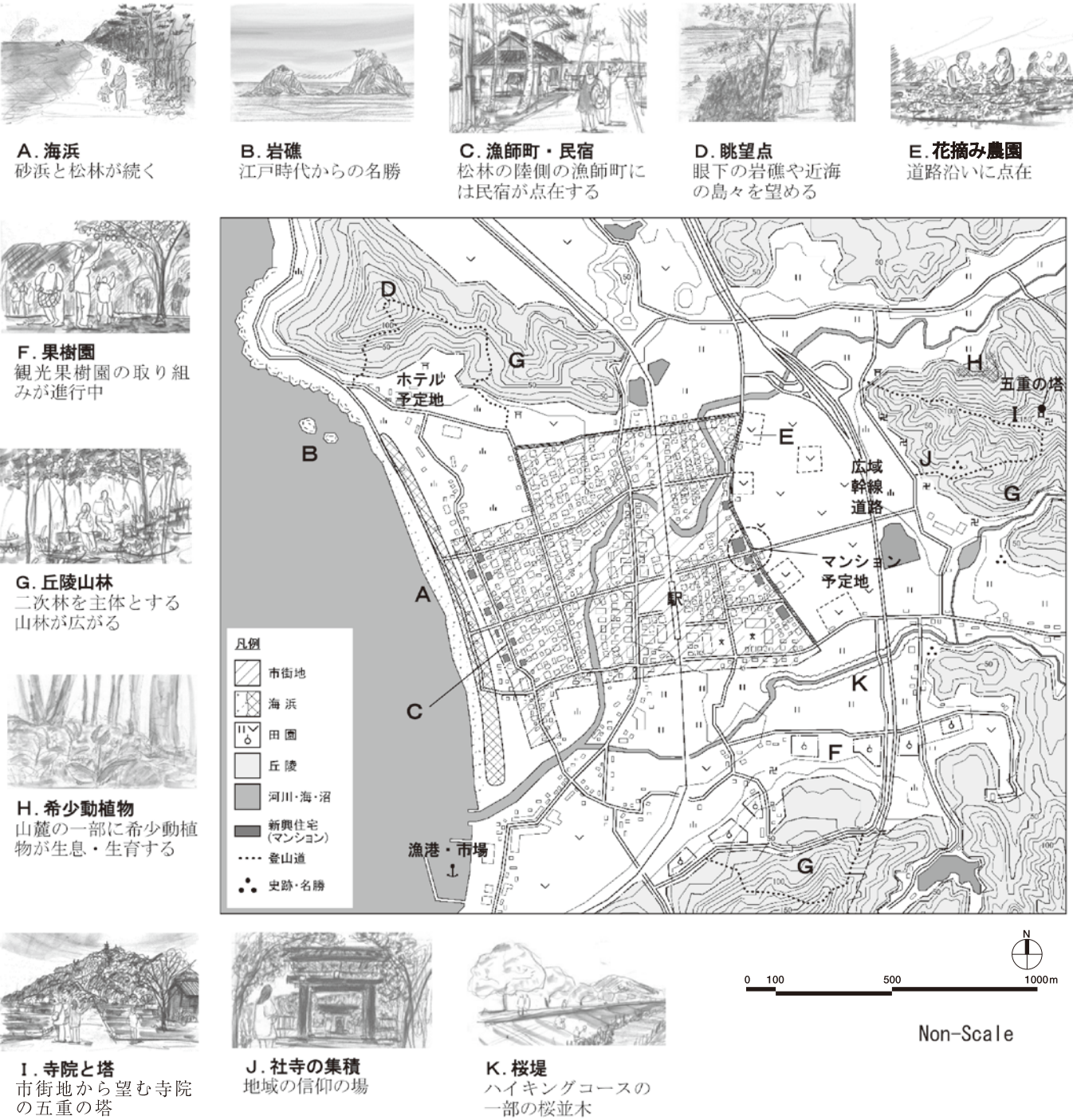
- ☐ 市街地　　：　鉄道駅を中心に商業地が形成され、その外側には住宅地が広がる。近年は、広域幹線道路の開通に伴い、市街地東側の道路沿いや海側でマンション建設が増加している。
- ☐ 海　浜　　：　海水浴場の砂浜と松林が連続し、北側には岩礁が見られる。松林は枯死が進行し景観機能・防風機能が低下している。松林の陸側には漁師町が形成されており、10軒程度の民宿施設が立地する。
- ☐ 田　園　　：　市街地の外周部に広がる農地の一部は花卉や果樹栽培地で、観光客用の花摘み農園や果樹園もあるが、規模が小さく分散しており観光資源として十分活かされていない。
- ☐ 丘　陵　　：　市街地の北・東・南側には、山並み景観を形成する丘陵山林が広がる。山麓の一部に希少動植物種の生息・生育地があり、地域での保全活動が行われている。
北側の岬につながる丘陵山麓には、観光ホテルの建設が予定されている。
- ☐ 東側丘陵　：　東側の丘陵山頂付近に寺院と塔が立地するほか、山麓には複数の社寺が立地しており、この一帯が地域の信仰の場となっている。
- ☐ 河　川　　：　市街地を流れる河川は、水質が良好で河川沿いには歩道が設置されている。
市街地の南を流れる河川沿いは地域のハイキングコースとなっており、一部に桜堤が見られる。

■解答における留意事項

- 1．解答用紙の①～③に、地域資源を活かした観光まちづくりの「拠点の整備」・「軸の確保や創出」・「ゾーンの保全や充実」についての方針を、示した項目数以上、簡条書きで枠内に収まる範囲にまとめること。
- ・「拠点」は、観光まちづくりの中核となる利用拠点や、その他の活動の場をいう。
- ・「軸」は、良好な景観の形成につながる帯状の景観資源や、視点場と対象物を結ぶ視軸などをいう。
- ・「ゾーン」は、観光まちづくりの資源となる一定の土地のまとまりをいう。
- ・それぞれの方針は、「どこを対象に」、「どのような対応を行うのか」を記述すること。

- 2．土地利用ダイアグラムは、方針で述べた「拠点」・「軸」・「ゾーン」と、歩行や自転車利用の回遊ルートを示し、脇に説明の短い言葉を添えること。（○○公園の整備、○○軸の確保、○○の良好な環境の維持 等）
- ・なお、拠点整備などに伴う現状の土地利用の変更は可とする。
- ・土地利用ダイアグラムは、わかりやすい視覚表現を心がけること。

■現況図



No. 1	土地利用ダイアグラム	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	
	問題用紙	2		

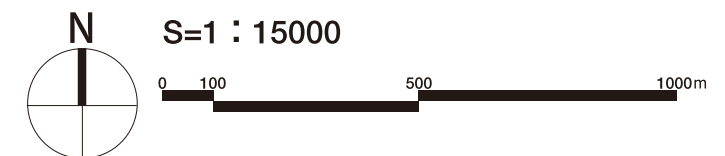
①自然・文化とのふれあいや交流・体験・眺望が楽しめる「拠点の整備」について：4項目

②良好な景観形成に向けた「軸の確保や創出」について：3項目

③観光まちづくりの資源となる「ゾーンの保全や充実」について：3項目

ダイアグラム凡例

- 拠点 (Base Point): Represented by a circle with diagonal hatching.
- 軸 (Axis): Represented by a solid line with an arrowhead pointing left.
- ゾーン (Zone): Represented by a dashed rectangular outline.
- 回遊ルート (Circulation Route): Represented by a line of small circles.



No. 2 敷地計画図を作成しなさい

(配点：20 点)

■出題テーマ

- ☐ 海沿いの傾斜地に建つ保養所における建物の配置と園地の計画

■課題

計画対象地は、海沿いの傾斜地に建つ保養所の一部で、隣接地にコテージを建設するのに伴い、コテージ利用者のための応接空間となる建築、園地、駐車場・車廻しの計画を行うものである。

以下の課題について、解答用紙に記入しなさい。

1. 海への眺望と既存の梅林への景観を活かした建物（センター棟とカフェ棟）の配置、及び駐車場と車廻しの計画を図示しなさい。
2. 現況の地形や既存樹林、水系を活かした園地及び園路の計画を図示しなさい。
3. 建物（センター棟とカフェ棟）と駐車場・車廻しの配置の考え方を、記述しなさい。

■敷地条件

- ☐ 計画対象地内の建物は全て撤去されている。
- ☐ 計画地の北側には、片側歩道の幅員8.5m道路が東西に伸び、出入口が残されている。また、この道路沿いには保養所建設時の擁壁が残されている。
- ☐ 計画地の南側には、幅員6.0mの道路を挟んで樹高3.0m程度の斜面林があり、その先に海への眺望が広がる。
- ☐ 計画地の北西側は、緩やかな傾斜地に竹林が広がり、林内から湧出した湧水が小さな沢となり、南側に流れる。この沢沿いには、美しい梅林が形成されている。

■計画条件

＜センター棟＞

- ☐ センター棟はレセプションと飲食機能を有する。
- ☐ 規模は、建築面積が596㎡、延べ床面積が924㎡とし、間取りは解答用紙に示した通りである。
- ☐ 宿泊のチェックインをする場所であることから、宿泊者の利便の良い配置とすること。
- ☐ 多様な景観を楽しみながら飲食ができる配置とすること。
- ☐ 2.0m程度の建物敷地の高低差は、建物基礎部分で対応可能とする。

＜カフェ棟＞

- ☐ 施設規模は、建築面積70㎡とし、間取りは解答用紙に示した通りである。
- ☐ 周囲の景観を楽しめる配置とすること。

＜駐車場・車廻し＞

- ☐ 一般車両駐車ます15台分と車いす使用者駐車ます1台分を設けること。（一般車両駐車ますは2.5m×5.0m、車いす使用者駐車ますは3.5m×5.0mとし、「身」と記入すること。）
- ☐ 既存樹2本を活かした、車廻し計画を行なうこと。車路幅員は6.0mとし、歩行者動線(幅員1.5m)を適切な位置に確保すること。

- ☐ 従業員用駐車場と搬入車用の荷捌きスペース（計200㎡程度）を、適切な位置に確保すること。

＜園地計画＞

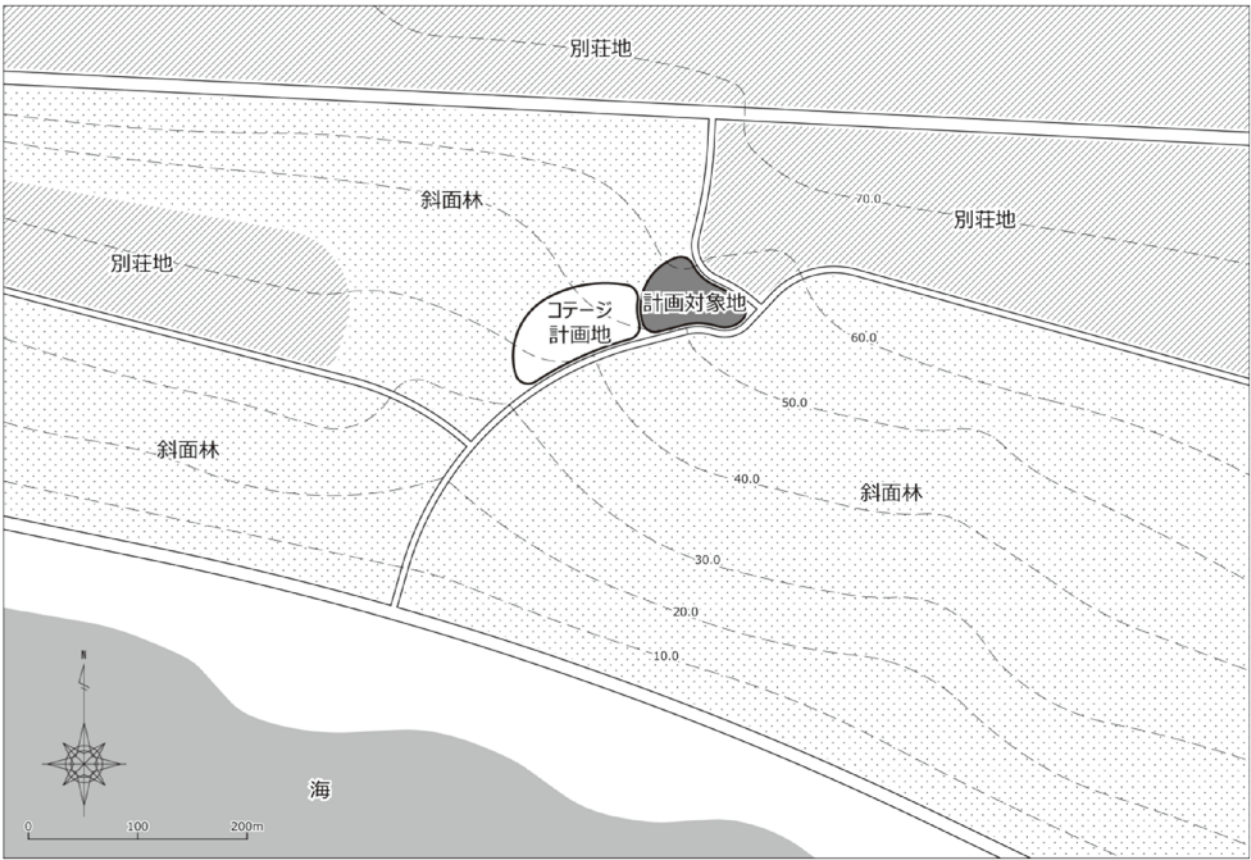
- ☐ センター棟やカフェ棟を配置する一帯に、園地を計画すること。
- ☐ 既存の梅林と一体となる植栽計画を行うこと。ただし、樹種や規格は記載しなくても良い。
- ☐ 既存の沢を利用してせせらぎや池の計画を行なうこと。

＜園路計画＞

- ☐ センター棟からカフェ棟やコテージに至る園路を配置するとともに、園内を回遊できる園路を配置すること。園路の幅員は2.0mとする。
- ☐ 荷捌きスペースからセンター棟へのサービス動線を計画すること。

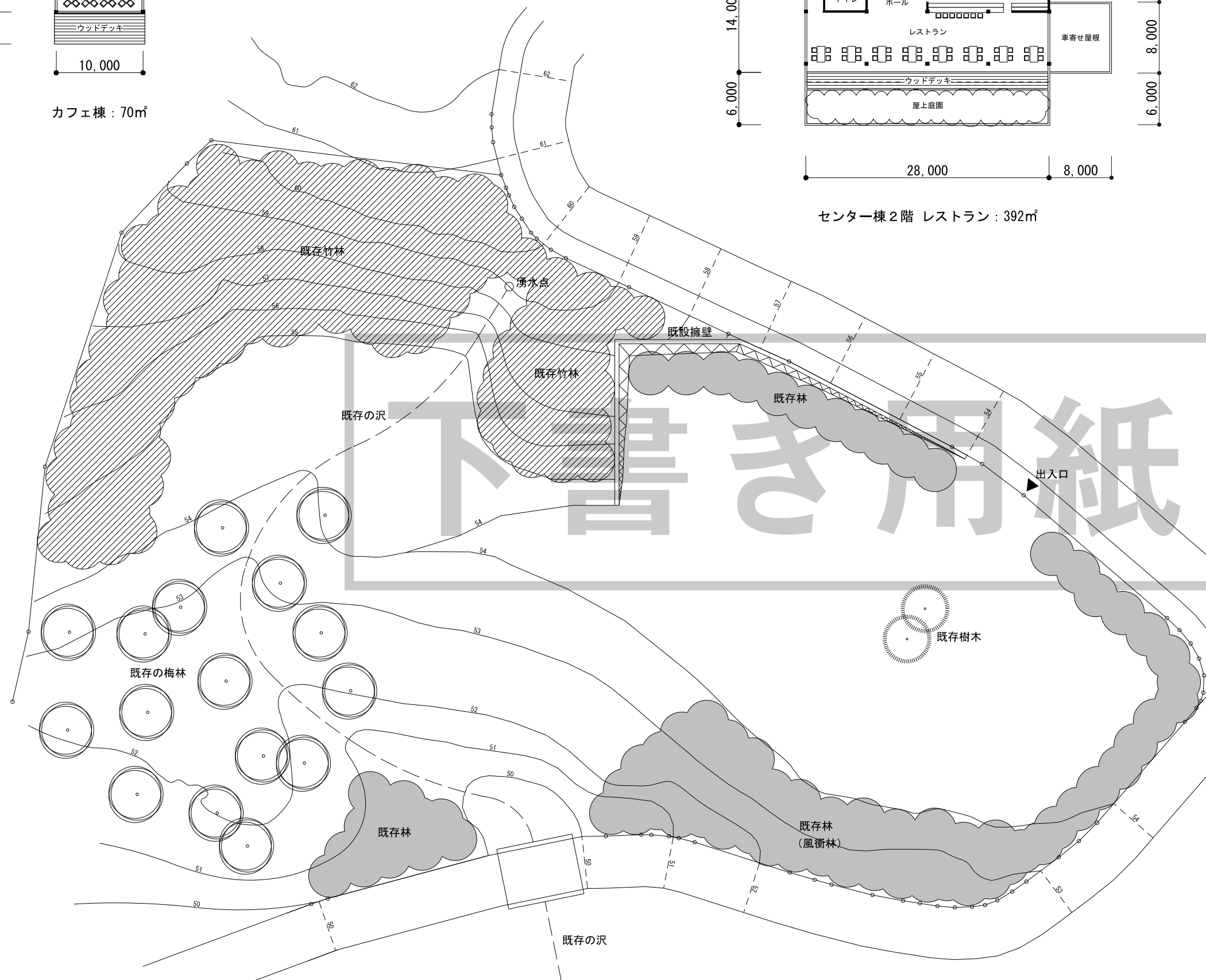
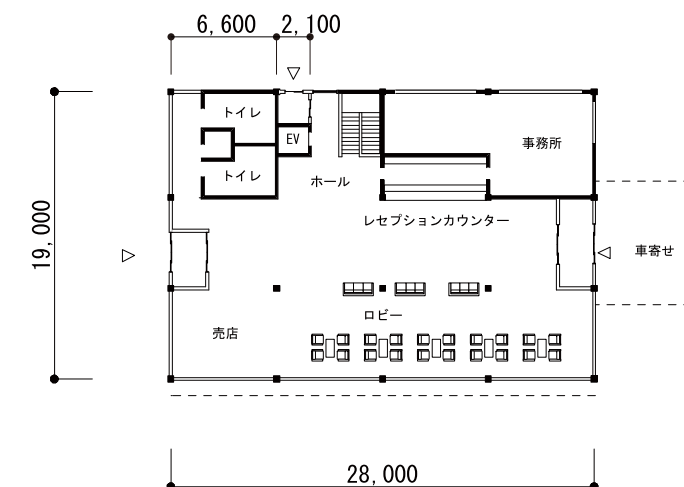
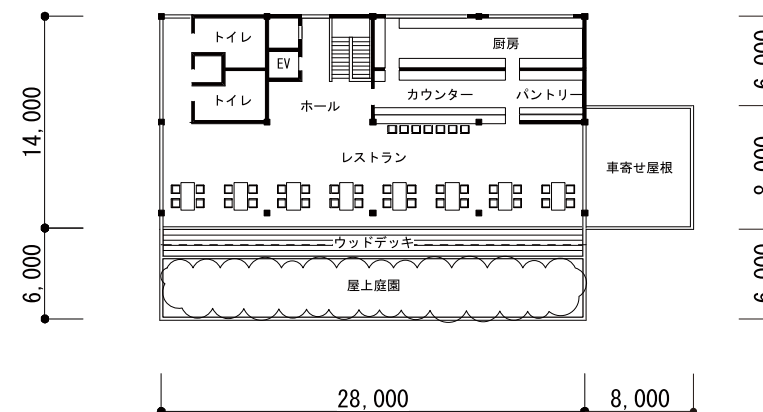
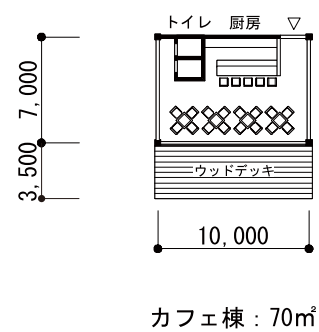
■解答における留意事項

- ☐ センター棟及びカフェ棟は、建物の外郭線を表示すること。
- ☐ 各計画施設は、その概要が分かる程度の表現とし、必要に応じて名称を記入すること。
- ☐ 図面表現を工夫し、解りやすく見やすい図面となるように努めること。

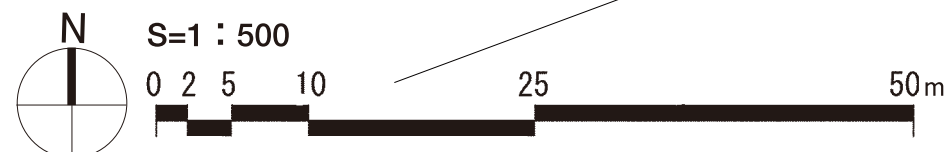


計画地位置図

No. 2	敷地計画	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	
	問題用紙	2		



建物と駐車場・車廻しの配置の考え方

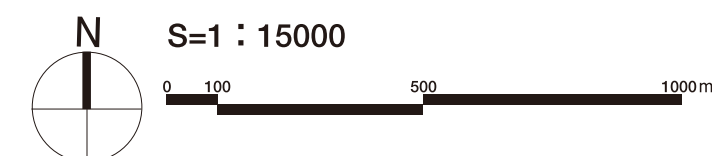
[illegible]

No. 2	敷地計画	2 2	RLA 資格認定試験	解答用紙ではありません
	問題用紙(下書き用紙)		Registered Landscape Architect	

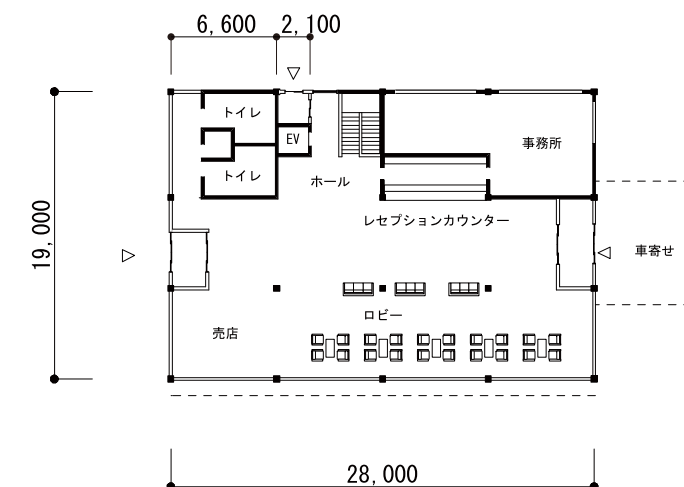
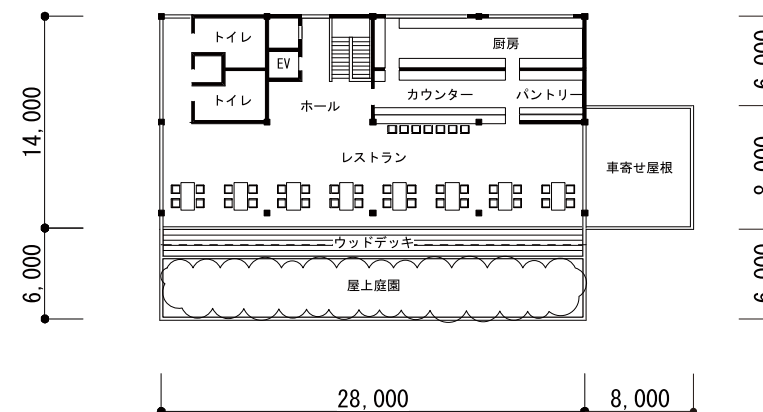
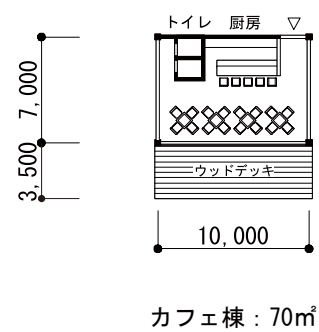
①自然・文化とのふれあいや交流・体験・眺望が楽しめる「拠点の整備」について：4項目

②良好な景観形成に向けた「軸の確保や創出」について：3項目

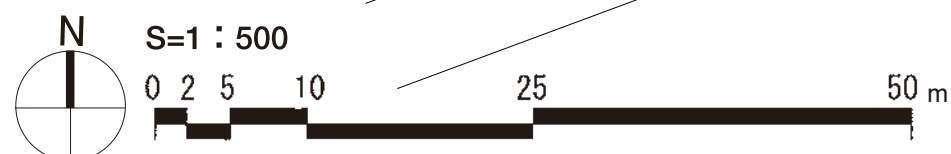
③観光まちづくりの資源となる「ゾーンの保全や充実」について：3項目



No.	土地利用ダイアグラム	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験 番号					
1	解答用紙	1							



建物と駐車場・車廻しの配置の考え方

[illegible]

No. 2	敷地計画	1 1	RLA 資格認定試験	受験 番号					
	解答用紙		Registered Landscape Architect						